

# 経営比較分析表（令和元年度決算）

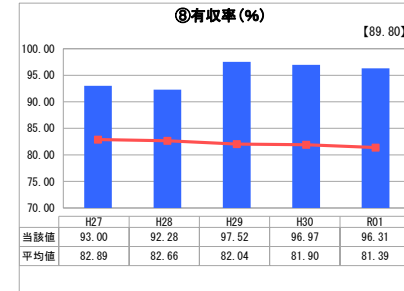
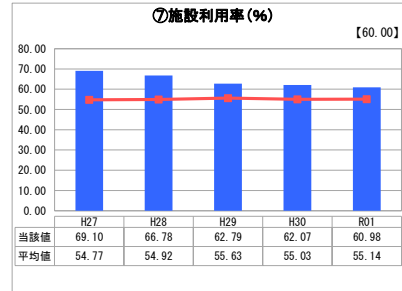
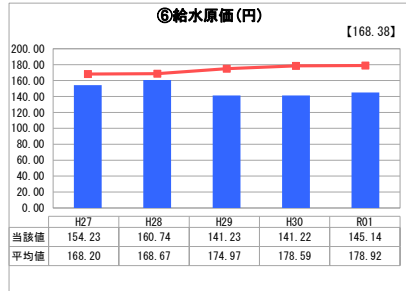
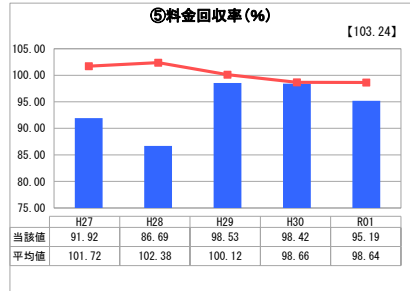
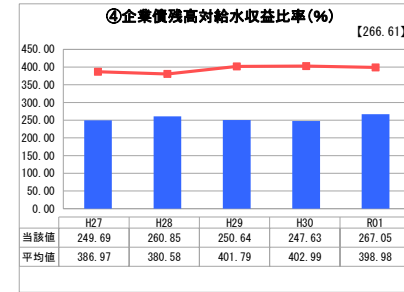
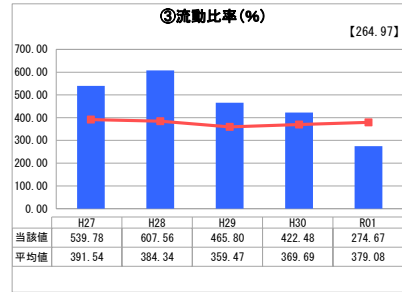
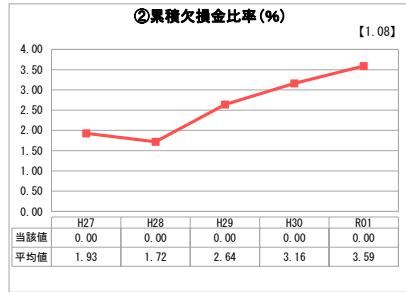
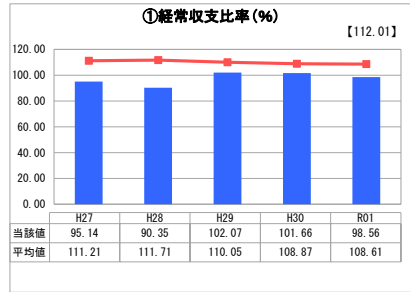
埼玉県 川島町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	73.70	99.94	1,966	

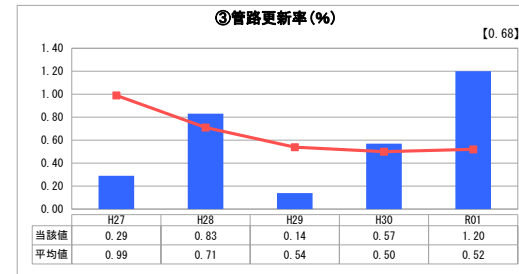
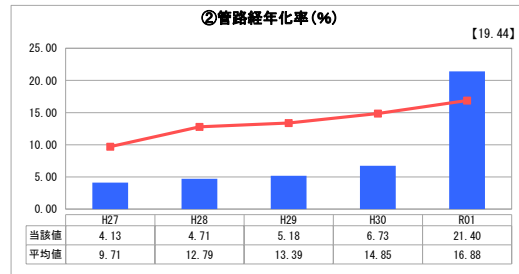
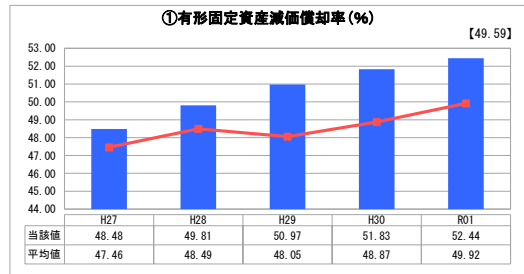
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
19,952	41.63	479.27
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
19,851	41.63	476.84

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和元年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率について、平成29年度から県水の受水量を削減し、自己水を増量するなど支出を減らしたことにより改善していますが、人口減少により給水収益が減少する中で水道事業ビジョンによる老朽化施設及び配水管耐震化事業により減価償却費が増加し、100%を下回りました。
- ②累積欠損比率は、平成26年度の会計基準改正以降、0が続いています。
- ③流動比率は大規模な工事を実施し、現金預金が減少したため低下しました。
- ④企業債残高対給水収益比率については、類似団体平均に比べてよい状態にあります。今後も、配水管耐震化事業の財源として企業債の借入を行うことで、変化すると思われます。
- ⑤料金回収率は、まだ100%を下回っています。
- ⑥給水原価については前年度より高くなりましたが、類似団体平均と比べ安い状況です。今後はさらにコスト削減などをすすめます。
- ⑦施設利用率の低下は、人口減少により水の使用量が年々減少していることを反映しています。今後は、施設や管路のダウンサイジングを検討していきます。
- ⑧有収率は、前年度より低下していますが、類似団体平均に比べてよい状態にあります。重点地域を設定し、複数年にわたりに行った漏水調査や漏水修繕を反映したものと思われます。今後も有収率が低下しないよう、漏水修繕を行っていきます。

### 2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は、浄水場施設・管路とも古い固定資産の占める割合が多い値となっています。
- ②管路経年率では、大規模な宅地開発等で布設した配水管が法定耐用年数を超えたため、延長が大幅に増加しました。
- ③管路更新率では、配水管耐震化事業により更新した管路が増えたため、増加したことを示しています。今後も配水管耐震化工事により管路の更新延長が増加するため、これらのグラフにも変化が生じると推察されます。

## 全体総括

経営面では、企業債借入について、償還金残高や利息水準などが適切になるよう検討します。また、漏水など水の無駄が生じないように取り組みます。浄水場施設や配水管では、配水管耐震化事業のほか、アセットマネジメント結果などに基づき老朽化施設の更新を進めます。また、水の使用量低下について、将来の水需要に合わせた老朽化施設のダウンサイジングを検討します。加えて、水道事業の広域化を推進します。

町では、水道事業ビジョンや経営戦略などを策定しており、水道事業経営について検討を重ねています。これからも、みなさまが安心して水道をご使用できますように、水道事業経営に努力いたします。